

# 富士山桧輝の流通学ぶ

## 協同組合の女性交流集会

県内の農協や漁協、森林組合、生協などの団体でつくる県協同組合間提携推進協議会に所属する女性部員の「交流集会」が先ごろ、富

士市や富士宮市で開かれ、木材の新ブランド「富士山桧輝（ひのき）」の産出から住宅への活用までの流通経路を見学した。



同部員約40人が参加し、地球環境の保全に対する貢献と厳格な品質管理を実現した「富士山桧輝」の仕組みや利点

富士山桧輝を使った住宅を見学する参加者  
(提供写真)

を学んだ。

「富士山桧輝」は、富士山ろくで産出した富士ヒノキを地元の住宅建設に振り向ける物流ネットワークを含んだ木材ブランド。

林業団体などで行く「緑の循環」認証会議（SGEC）の認証を受けていて、同木材を一定の基準以上使用した住宅を「森林認証システムの家」と認め、普及を目指している。

認証材は管理を向上させ、木材品質と地球環境機能維持の両立を保証。流通ルートをつくることで伐採から使用、植林のサイクルを確立、二酸化炭素の削

減や循環型社会の構築を目指している。

この日の交流集会は、富士宮市の森林内で間伐材の伐採現場を見学することからスタート。富士ひのき加工協同組合で製材の様子を見た後、「富士山桧輝」を使って富士市宮島で建設中の一般住宅に足を運び、木材の品質管理体制などを確認した。

住宅施工は「富士山桧輝」の物流ネットワークを組む工務店の1つ、澤田建築（鈴川西町）が担った。

澤田建築は「健康」をテーマに家作りを行っているとして、「建物の健康のために県産の木材を使っている。地元の森林を守るため地元木材で家作りをすることで、地球環境の保護に貢献することが私たちの使命」と話した。